

## 特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH

TOUCHは平成18年に正式にNPO法人としてスタートしました。法人としては初めての広報紙です。これからもよろしくお祈いします。

福祉の制度が大きく変わりつつある今、平成18年1月にTOUCHはNPO法人となりました。自閉症の人たちの毎日の暮らしが健やかであること、それが私達の願いです。

特に自閉症の方への本当に必要なサービスは従来の福祉政策では谷間となっており、まだ十分な理解が得られておりません。自閉症の方の真の自己表現・自己実現を図り、地域でのくらしを支援する為にも一層の努力を重ねる所存です。まだまだ未熟な私どもですが、今まで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH は、  
自閉症児者が地域で豊かな生活を送ることができるように支援を行っていきます。  
そのために**

**自閉症児の療育事業** … 個別療育PLT教室

**相談・生活支援事業** …… 来所・訪問相談

**自閉症に対する理解を啓める事業・支援者の養成事業**

…お父さんのFA学習会・お母さんのMA学習会・講演会・学習会など

**自閉症児者の兄弟姉妹の健全な育成を目指す事業** …レクリエーションサークルSTEP  
この4つの事業を行います。

自閉症児者とその家族のくらしを応援します。お困り事はお気軽にご相談下さい。

2006年 夏号

2006年7月23日発行

## 目次

TOUCHから	
講演会 お知らせ P1	
PLT教室便り	
職員紹介 P2	
自閉症啓発DVD	
製作裏話 P3	
地域で暮らそう P4	
兄妹児の声	
家族でよかった P5	
本のご紹介 P5～6	
賛助会員様御礼 P6	

## 講演会のお知らせ

**自閉症を中心とした発達障害者のコミュニケーション力を伸ばそう！**

講師 坂井 聡 先生(香川大学教育学部 障害児教育コース 助教授)

コミュニケーションが困難な障害者の自己決定・自己選択を支えるには  
どのような支援が必要なのでしょう？

問題行動の大部分はその根底にコミュニケーションの問題があると言われています。

彼らと情報を交換したり共有することができれば、問題行動を軽減し、彼らの生活を更に豊かなものにしていけるでしょう。そんな支援について経験豊かな坂井先生からわかりやすく

ご指導いただきます。また、AAC(拡大代替コミュニケーション)の実践の具体的な様子も見せていただけます。

「やりとりの力を伸ばしたい」と願う保護者・支援者の方々の多数のご参加をお待ちしています。

日時：平成18年10月14日(土) PM 1:30～4:30

場所：市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)601研修室 6階  
福岡市中央区荒戸3丁目3番39号

参加費：前売券 700円 当日券 1,000円

## 【お申込み方法】

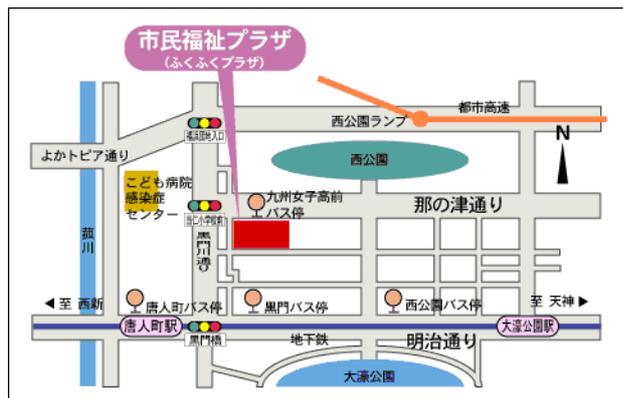
前売券は下記郵便振替口座にお振込み頂き、ご購入とさせていただきます。

尚、複数のお申し込みの場合は、数量と代表者のお名前のお忘れのない様をお願いします。当日、会場受付にて控えを入場券と交換致します。控えをお忘れになりますと、入場できない場合がありますのでご注意ください

口座番号：郵便局01790-0-117757(右詰め記入)

口座名義：NPO法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH

振込期限：2006年10月5日



## PLT教室便り

今回は自己紹介も兼ねて2人の職員よりご挨拶です。

TOUCHスタッフの川原です。早いもので職員となってから半年が過ぎようとしています。TOUCHのPLT教室で個別療育事業と相談事業を主に担当しております。以前は成人の方の入所施設で支援員として十数年過ごしてきました。成人の方への支援をさせていただく中で、いわゆる「問題行動」を起こしてしまう方を多く見てきました。本人が一番困っている状況にあるのに、家族も支援者も無力な状況も多く経験してきました。そんな時に、子どもの頃にこんなことができるようになっていたら、こんな力を身につけていたらと考えさせられていました。自閉症の方への支援についての勉強をしていく中で、縁あってTOUCHと関わりを持たせていただき、最初はお父さんたちの勉強会のお手伝いをさせてもらいました。(振り返れば毎月の勉強会を3年余りも続けてきたこととなります。忙しい中、参加してくださっているお父さん方に拍手。)

TOUCHがNPO法人となるにあたって、「自閉症の方本人への支援を始めよう、子どものころからの療育や支援が大事だ」という思いから個別療育・相談事業のスタッフとして働き始めることになりました。

個別療育をおこなう中で常にイメージしているのは、目の前のこの子が大人になった時にどんな生活をしているだろうということです。人から必要な支援を受けながら自分の持っている力で「自立的に」生活している。そんな大人になっていけるようなお手伝いをさせていただければと思っています。そのためには教室の中での療育だけでなく、家庭や学校での生活についても一緒に考えていきたいと思っています。とはいえ、嫌な「療育」を受けさせられる場所ではなく、週に1度、楽しんで通ってくることのできる教室でありたいと思っています。今という時を豊かに過ごすことも大事ですから。

また、障害福祉が大きく変わっていく中、自閉症の人が地域での豊かな生活を送っていくために何をしたらよいか。試行錯誤しながらですが成人の方の生活の支援もおこなっていききたいと思っています。夢は生涯を通しての包括的な支援です。療育、相談、生活支援とやりたいことはたくさんありますが、すべては「自閉症の方が豊かな生活をおくる」ことのお手伝いだと思っています。今後もよろしく願います。

4月からTOUCHの職員になりました福澤亜紀子です。PLT教室で療育をさせていただいています。福岡教育大学の障害児教育課程を出しましたが、大学に入ってから私は、恥ずかしながら知的障がいと自閉症の違いというのが分かりませんでした。一度の説明だけでは分からず、幾度もの説明と実際にご本人と関わっていくことを通して、ようやく理解できるようになりました。ですが、自閉症の理解となるとさらに深く、現在も学びの途中にあります。おそらく、生涯、学び続けることでしょう。

大学を卒業してから今年の3月までは、福祉センターや市内外の養護学校の講師をしていました。こちらの教室にも大学の頃からお手伝いをさせていただいていました。昨年、NPO法人になったと伺い、ご本人への生涯に渡る支援ができることに、理想を感じました。同時に、その一員になることで、実現に向けて少しでも力になりたいと思っています。

療育では、環境を整理したり、課題に取り組みやすい工夫をしたりすることで、ご本人の学びのお手伝いをしています。色々なことを習得していく可能性は、誰もがもっています。しかし、それを表面に出したり、行動に移したりするのに、周りの刺激や、自身の感覚などのあらゆる問題がからみあってできなくなってしまうことは多々あります。もし、周りの人が何かを調節することでできることが増えたり、生活しやすくなったりするのであれば、私は、そのために支援を行い続けていきたいと考えています。ご本人にとってPLT教室が楽しい場となり、生活全体が過ごしやすくなったと感じられるように、療育の場面だけでなく、あらゆる方面から支援していけるように、連携を図りながら努めていきたいです。

自閉症の理解がもっと広がり、深まるように今後も努力していきますので、皆様、末永くお付き合いよろしく願います！！



\* PLT教室とは(P = Play L = Learning Treatment) TOUCHでおこなっている個別療育です。

## 自閉症啓発DVDを製作して

RKB毎日放送 神戸金史



日本自閉症協会から、啓発ビデオの製作を依頼されたのは去年8月のことでした。協会は何種類ものハンドブックを発行していますが、保育士や養護教諭といった自閉症児と直接触れ合う人たちでさえ、正確に障害を理解している人が少ない現実から、映像化を検討していたのです。委員会を立ち上げ、どんな映像にするのか、誰に作らせるかを話し合っている最中に、私がディレクターを務めた1時間ドキュメンタリー「うちの子～自閉症という障害を持って～」がたまたま全国放送されました。

実は、ビデオ製作委員会の委員長は毎日新聞の野沢和弘さんで、私が去年春まで在籍していた社会部の上司。野沢さん自身も自閉症児の父であり、私が書いた連載「うちの子～自閉症児とその家族」の担当デスクでもありました。「うちの子」というタイトルも、自閉症児の父親である野沢さんの思いがこめられたものです。それで「映像なら神戸君に頼めばいいじゃないか」ということになったようです。

私自身は報道記者で、お金をもらって映像を作ることはできません。それで、RKB映画社という会社で受注し、私は業務外で全面的に監修することにしました。実際の取材は、映画社の優秀なディレクターに担当してもらいました。

当たり前なのですが、映像の世界も、台本(原稿)を書くことから始まります。しかし、実際の映像やインタビューで表現されている内容は、ナレーション(原稿)で再び表現する必要はありません。自閉症児がパニックを起こす姿や、親の切実なインタビューは、活字で書くより実物の方がいいわけです。放送の原稿は、こうした生の音の間に挟みこみ、全体としてイメージが正しく伝わるように調整する役割を持っています。

だから、撮れたもの次第で原稿は大きく変わるので、発注する側は映像の手法を知りませんから、事前に正確な原稿を求めてくる人も多いわけです。協会が開かれる委員会には映画社のディレクターが出席しましたが、「ここはこう表現して」「この話も原稿に盛り込んで」と注文を受けるたびに困ってしまったようです。ディレクターは自分の表現したいものは後回しにして、原稿(活字)中心に組み立てていきました。

今年1月、仮に編集が終わったVTRを見た時、私はあ然としました。「孤立群」「積極・奇異群」「セントラル・コヒーレンス」などの専門用語がずらずら出てきますが、まったく理解できません。活字を映像化しただけだったのです。これならば、活字だけの方が情報量も多いし、何度も読み返せます。映像化した意味がないと思いました。映像製作は補助金を受けた事業で、年度末の3月中に発送しなければなりません。委員会のメンバーはおろおろしていました。

しかし、ディレクターの撮った元々のテープには、何気ない親子のやりとりや、子供の表情と声などがたくさんあったのです。「大丈夫ですよ、素材はありますから」と私は伝えました。ディレクターに使いたい音を選んでもらい、まずそれを並べてみてから間に原稿を置いてみました。聴覚過敏や視覚の問題は、アスペルガーの人たちが自分の感覚を表現した本を参考に想像し、CGで表現しました。映画社のスタッフは技術と知恵を絞ってくれました。

私がこだわったのは、「構造化」でした。妻から何度説明されても、本を読んでも「構造化」という言葉が意味するものが分からなかった。これを、映像で見分けるようにしたかったのです。そもそも、 टीーチが応用行動分析かなど、自閉症の療育には対立があり、そのどちらにも私は組み込まれなかった。監修を引き受けた時も協会に「見て分かるものを作りたいので双方から批判が出るかもしれませんが、覚悟しておいてください」と申し上げていました。

親子の関わりや思いが入った2番目のVTRを見た委員会は、そうとう安心したようです。しかし、メンバーのティーチ専門家からは「これでは構造化を説明できていない」と強く批判されました。

撮れなければ、原稿で表現するしかない。だが、いくら言葉で補ったところで、見ている人には理解できなければ映像表現としては不要。そのあたりを理解してもらえないことが一番辛いところでしたが、テロップや原稿を微調して、最終的には納得してもらいました。

DVDは9000枚プリントされ、全自治体に2枚ずつ、教育委員会と福祉担当課に配布されています。いずれは再版して販売する計画ですが、協会事務局の動きが鈍く、まだ一般にあまり知られていません。自閉症を表現したせっかくの初めての啓発ビデオですから、早く多くの方に見ていただきたいと思っています。

### 自閉症の子どもたち

#### バリアフリーを目指してー

1. 自閉症の子どもたち
2. 自閉症ってなに？
3. もっと知って自閉症のこと
4. 自閉症のある人への支援
5. 家族からのメッセージ



助成 独立行政法人福祉医療機構  
企画・製作 社団法人日本自閉症協会  
製作 RKB映画社

## 地域で暮らそう

地域で暮らしていくためには、周囲の理解がキーポイントになってくると思います。毎日の生活の中で、コンビニや、公共交通機関、なにかあったときの警察などかわりの多くなるであろう場所に理解者をつくらうというプロジェクトを進めている方たちがいます。

自分の地域でお店に挨拶をする、子供のことを上手く伝えるなど、既に行動している方も多いかもしれませんが、うまく伝わるか不安。どう伝えたらいいのかわからない。という方にはこんなチラシもありますので利用されたらよいのではないのでしょうか？

福岡市でも福岡市社会福祉事業団西部療育センターが発行した「ためらわないで！」というコンビニエンスストア向けのチラシがあります。このチラシは、保護者や本人が日頃利用しているお店や、これから利用するお店に協力や理解を得るための説明に使えるようにと作成され、コンビニエンスストアの統括をされている事業部や、商工会議所、福岡市手をつなぐ育成会、福岡市自閉症児者親の会に配布されたそうです。福岡市社会福祉事業団の主催する講演会や、福岡市発達教育センターなどでも配られていて入手できました。必要に応じてもらうことが出来ますので、西部療育センターにお問い合わせ下さい。

西部療育センター Tel 092-883-7161

Fax 092-883-7163



福岡市社会福祉事業団福岡市立西部療育センター 発行

このほか、交通機関向けにリーフレットと冊子、コミュニケーションボードを作成され、主要交通機関に配布されたそうです。こちらは残念ながら入手できませんが、心強い活動をしていただいています。

右の2つのパンフレットは、プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪発行のコンビニパンフとぼっぼやパンフです。地域のセーフティネット構築のさきがけになったとりくみで、こちらを参考に他の地域でも同じような活動が行われています。こちらのパンフはホームページからダウンロードできます。

ホームページは

<http://www.pakpro.com/honbu/project/conbini/conbini.html>

このほかにも、警察官むけの「知的障害のある人を理解するために」という冊子も発行されています。

冊子 1部 100円 + 送料(何部でも)

[http://www.pakpro.com/honbu/project/koutsuei/05\\_kpro.shtml](http://www.pakpro.com/honbu/project/koutsuei/05_kpro.shtml)



「コンビニパンフ」



「ぼっぼやパンフ」

発行者 プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪

## 兄妹児の声

『家族でよかった』

嶋津 早織

TOUCHの兄弟姉妹の活動ステップに参加されている嶋津早織さんの作文です

「たつやが自閉症でよかったね。」お母さんがそう言った。私は「なんで？」と聞いた。別に弟の事がいやなわけではないけれど、「自閉症じゃないきょうだいがほしいなあ・・・。」と思っていた。でもそう思っている自分もいやだった。「だって、たつやのおかげで色々な人にであえたんだよ。」と言われて、「本当にそうなのかふり返ってみよう。」と思った。

私は色々なサークルに入っている。まず、「たんぼぼ」このサークルでは毎週わらべうたや水絵などして、しょうがい者も、そうでない人もみんな仲良くしようというもの。ここで、やめてしまった人も多くて二十人くらいいるだろう。「ステップ」では、しょうがい者のきょうだいで、毎月ボーリング、カラオケ、キャンプなどをボランティアの人(家族以外)と一緒に行って、将来相談できる相手を作ろうというもの。

たしかにたくさんの人に出会っていた。このほかにも数えきれないほどに。そこで、私の弟をみんなに知ってもらいたくなった。でも、弟とは学校はちがう。特殊学級がないからだ。ある朝学校で友達と楽しく話していた。すると、廊下でだれかが私を呼んでいる。そこには、ケイタイをもった弟。それと弟をつれてきた友達。弟は何度が交流しているので知っていたのだろう。とりあえず弟をつれてトイレへ。そしてケイタイで親に連絡。話を聞くと、家から私に会いたくて一人で家をとびだしてきたらしい。大変だったけど、すごくうれしかった。「もうたつや以外にきょうだいはいらない。」そう思った。大切さがわかった。今、私は人の大切さ、一緒にいることによるこびを再確認した。この家族でよかったと。

\*ステップはTOUCHがおこなっているきょうだい児の支援事業です。



## 本のご紹介

- 1 おとなしいのは、病気だから?(ストーリー 子どもが呼びかけに答えられない  
自閉症とは 言語力や認知能力などの発達障害 ほか)
- 2 原因はしつけじゃない(ストーリー 悪いのは、私たち夫婦?  
原因 「心の病気」ではなく「脳の障害」ほか)
- 3 専門家と協力して療育をすすめる(ストーリー 自閉症だと思ったら...  
相談先 福祉施設や病院、学校にたよっていいほか)
- 4 TEACCHで社会性を身につける(ストーリー 育て方を理解したい  
TEACCHとは 生活習慣を体で覚える ほか)
- 5 社会生活に入っていくために(ストーリー 夢や目標をもってほしい  
経過 自主性を育てることをめざす ほか)



佐々木正美 監修  
1,260円 (税60円)

好評だった自閉症児のための絵で見る  
構造化のパート2が8月8日にでます。

絵でみることが出来るのでわかりやすく  
て実践に繋げやすく本当におすすめの  
一冊です！

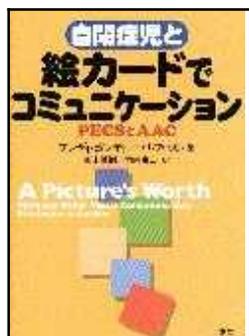
佐々木正美 監修・指導・文/宮原一郎 画  
2006年8月8日発売 1,995円

(目次)

- 第1章 保育園・幼稚園での活動の構造化
- 第2章 小学部でのさまざまな活動の構造化
- 第3章 給食・調理・食事の構造化
- 第4章 自宅での生活の構造化
- 第5章 就労・職場・余暇活動の構造化



## 本のご紹介



アンディ・ボンディ、ロリ・フロスト 著  
園山繁樹 竹内康二 / 訳  
2006年07月31日発売  
2,100円(税込)



内山登紀夫 監修  
諏訪利明・安倍陽子 編  
1,890円

自閉症をはじめとした、話し言葉によるコミュニケーションに重度の困難のある子どもや大人の人に対する拡大・代替コミュニケーションシステム(AAC)が、わが国でもその重要度を増しています。本書では、絵カードを使ったPECSトレーニングとその展開の仕方が、わかりやすく解説されています。子どもが絵カードを使ってコミュニケーションができるようになることだけでなく、子どもの生活の変化がどのように起きていったかを説明しています。

第1章 どうしよう!?こんなとき(ますみくんの場合 予定が変わると不安になっちゃう  
なおやくんの場合 みんなのゼリー食べちゃった  
のぞみさんの場合 リコーダーの音ががまんできない  
あかねさんの場合 楽しくても手をかんじゃう! ほか)  
第2章 自閉症って何?(自閉症は生まれつきの障害  
自閉症の特徴は3歳くらいまでにあらわれる  
知的なおくれのある自閉症  
手助けのポイント ほか)

賛助会員の皆様、ご協力ありがとうございました。  
心より御礼申し上げます。

2005年10月～2006年7月

### 団体(順不同・敬称略)

(株)大原老舗福岡  
学校法人 教育ビジネス学園  
ACB・(アシベ・ドウ)

### 個人(順不同・敬称略)

大神 和恵  
中村 久美子  
長沢 暁子  
花井 のぞみ  
藤村 浩美  
岩崎 加奈  
隈本 晶子  
小松 淳  
水野 登志子  
大森 裕一  
大森 奨  
馬場 由紀子

宮川 健二  
宮川 美智子  
馬場 清己  
馬場 由美子  
小田 陽子  
榎本 美帆子  
池松 孝浩  
作道 由美子  
森本 啓子  
小柳 卓也  
藤田 理恵子  
漆間 めぐみ  
吉木 有紀  
井上 哲雄  
井上 砂智  
高本 雅子

升岡 奈保子  
金崎 慶子  
峰松 美恵  
宮崎 亜希子  
栗田 亨  
山口 美穂子  
木下 武  
下澤 善四郎  
田原春 博巳  
早川 和彦  
首藤 昇悟  
高木 勝彦  
松岡 芳之  
松岡 恭子  
松岡 浩子  
竹内 一平

猿川 隆文  
猿川 京子  
小笹 美代子  
伊藤 元信  
中島 伸也  
松藤 幸之輔  
渡辺 亮一  
鮫島 弘樹  
飯ヶ浜 誠司  
矢部 明洋  
高倉 美恵  
嶋岡 倫志  
井本 義親

【お知らせ】 H19年4月より作業所を開所します。  
PLT教室ではH18年10月から新しく20名の個別療育を開始します。現在生徒さんを募集しています。  
【お問い合わせ】 TEL&FAX(092)632-8150

E-mail npotouch@ybb.ne.jp

発行元 特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH

福岡市博多区千代1-23-19

<http://www.npotouch.jp/>

E-mail npotouch@ybb.ne.jp